

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市黒松児童館
2	指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
3	指定期間	平成30年4月1日から令和5年3月31日まで
4	施設の利用状況	《利用者数》 21,563人 (前年度比 85.6%) 平成30年度 25,181人 平成29年度 25,833人 平成28年度 23,712人
		《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5	収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 27,500千円 (32,241 千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)
		《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円)
		・ その他収入 0千円 (0千円)
6	利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート, 児童館協力者会議, 児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II	施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III	施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV	サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V	施設固有の基準	児童クラブにおいては、小学校と連携を図りながら子ども一人ひとりに応じた細やかな支援を行うよう努めている。保護者に対しては、月一回のテストメールを利用したお知らせの送付や、保護者懇談会に合わせて行事を行うなど、より良い協力関係を築くための工夫を凝らしている。また、放課後子ども教室との連携事業を通して、子どもに関わる関係機関との情報共有や相互交流を図っている。	19/19

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》

令和元年度は、「諸団体等との連携による事業展開」、「児童健全育成」、「子育て家庭支援」を重点項目として事業運営に取り組みました。

児童館・市民センター6館連携の「ちびっこフェスタ」は、身近な子育て支援の場としての各館の活動をPRするとともに、来場者やボランティアの交流の機会となりました。

近隣3児童館連携によるドッジボールとけん玉の「AKDチャンピオン決定戦2019」では、練習期間や決定戦を通じ、子どもたちがチームワークの大切さを学ぶ機会となりました。

児童健全育成の例としては、チャレンジクラブの子どもたちが「黒松夏祭り」や「黒松市民センター・黒松児童館まつり」のステージで、ダンスの練習の成果を発表し、表現する楽しさや達成感を体験しました。日頃の活動の中でも、小規模な遊戯室や館庭で出来る「運動遊び」を工夫するほか、手芸・図画工作などの創作的な「表現遊び」もバランスよく取り入れて、子ども達の情操を豊かにする遊びの充実のための取組みに努めました。

乳幼児親子向け事業では、「くまっちー0(0歳児親子)」、「くまっちー0サロン(同)」、「くまっちー1(1歳児親子)」、「くまっちーの宝箱(乳幼児親子)」、「くまっちークラブ」などの子どもの発育・発達段階に合わせた行事を実施して、親子で気軽に参加・交流できる場を提供するとともに、泉区家庭健康課や長命ヶ丘子育て支援センターの協力のもと、育児不安解消のための講話や相談を内容に盛り込むなど、子育て家庭支援の充実を図りました。

児童クラブでは、「KYT活動」や「110番の家めぐり」などを通じ、子ども達に危険回避についての意識づけを行いました。また、保護者会参加者によるグループワークの結果を「児童クラブ通信」に掲載して、児童の自立を目指し情報を発信しました。

以上のことから、今年度も目標をほぼ達成することができたものと総括しています。

《施設設置者（仙台市）による評価》

総合評価

児童健全育成事業として、小学生の高学年ボランティアグループには、児童クラブ利用の子どもたちとの交流を通して、主体的に遊びを進め、ルールを教えるなど、リーダーとしての役割りを担えるように支援している。また、中学生ボランティアグループに対しても、各種行事での手伝いを通して小学生との異年齢交流の機会を設けている。「AKDチャンピオン決定戦」として、近隣の児童館とドッジボールやけん玉での交流の機会を持ったり、子ども達の日々の遊びの中で人気があるものを学年別の大会として開催するなどして、遊びを通じた社会性の向上や運動発達機能の成長に努めている。また、「KYT活動」で地域の危険箇所を学ぶ機会を設けたり、子ども達が見通しを持ち行動できるようデジタル時計を使用したりするなど、子どもの自立に向けた細やかな支援を行っている。

地産地消を学びながら調理活動を行う小学生対象行事の「半日村」や、おさがり品のリサイクルを行う乳幼児親子向け行事の「地域おさがりの会」など、小学生向けと乳幼児親子向けの二つのチームに分かれて活動している子育て支援クラブの特性を生かし、共催行事の内容を充実させている点が評価できる。市民センターとの共催事業では、「ふるさとの杜再生プロジェクト」の植樹への参加など、子ども達が地域社会の一員であることの自覚を育む取組みに努め、地域活性化にも貢献している。

S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課